

未発覚の犯罪も検出可能 仏企業の万引き行動検知システムを取り扱い開始

高千穂交易



AI映像解析で万引き関連の体の動きを検知してアラートを発報

高千穂交易（東京都新宿区、井出尊信社長）は、フランスのVeession SAS社と販売代理店契約を締結したことを発表した。そして、日本国内では初となるAI映像解析技術を活用した万引き行動検知システムの「Veession（ヴェイジョン）」の取り扱いを開始する。同システムを活用することで、従来は発覚に至らなかった万引き犯罪もリアルタイムで検出することが可能となるため、店舗の商品ロス削減やスタッフの負担軽減などを推し進めることが期待できる。

刑法犯認知件数は戦後最悪の時期から大幅に減少した一方で、万引き犯罪の占める割合は増加傾向が見られる。2023年は前年比で11%増加しており、店舗では対策を模索し続けている。

高千穂交易が取り扱いを開始する「Veession」は、店舗の万引き対策を支援するシステム。

防犯カメラ映像をAI処理して、体の部位をパース別に自動で認識するとともに万引きに関連する体の動きを瞬時に検出することが可能、既に世界26カ国の3000店舗で採用されている。

現在では万引きを確認する一般的な手段として、店舗スタッフや万引き防犯カメラの録画映像などが挙げられる。「Veession」を導入すれば、万引き行動を自動で

検知でき、その時の映像がスマホに通知されるため、店舗スタッフの負担が軽減される。従来型の確認手段では対応が困難だった万引き犯罪も、AI映像解析技術でリアルタイム検出できるようになる。チェーン展開する企業では、ダッシュボード

で全店の検知データを管理することも可能となるため、店舗ごとで万引き行動の頻度や発生しやすい曜日・時間帯を把握でき、効果的な対策を講じ

られる。アラートデータを蓄積すれば、万引き常習者を特定できる。

既設の防犯カメラを有効活用しながら、ディープラーニングで検知精度の継続的な向上も図れるため、店舗の商品ロス対策の最適化が可能となる。

販売目標は2026年度までに20社・150店舗。高千穂交易では、「Veession」の販売などを通じて、小売業の万引き対策を支援する。